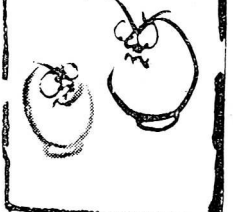


農芸 談話室



西瓜の接木

【問】 西瓜を夕顔に接ぎたいのですがその方法をお知らせ下さい。(北海道智恵文熊谷洋、穂別村北上義三)

【答】 西瓜の接木について

一 接木をするに何故良いか。

西瓜には恐ろしい蔓割病という病気があり、この病気は多く土壌により伝染される。この病菌は根の先端や切傷から侵入する場合が多く茎葉や蔓に薬剤散布してもあまり効果がない。処が夕顔や南瓜はこの病気に対して抵抗力があるので接木すれば完全に防止しうる。尚夕顔や南瓜の根は吸肥力が強く肥料を高度に利用できる外、枝葉の伸長が旺盛で収量も多い。接木作業は温床内で行わねばならないので播種期がそれだけ早くなり、接木苗は植傷も少ないのでその後の発育も良好で熟期も早くなるわけである。

二 床の準備

ここでは大量栽培の場合をさき、少量の接木を行うものとして説明することにす。接木の時期は四月中、下旬が良いので四月上、中旬に床を作る。接木床の床温は二五度C位必要なので、踏込の深さは八寸一尺位とする。一坪に厩肥六〇―七〇貫位に生の稲藁、米糠を少量混ぜ一荷位の水

をかけて踏込むと、七日位で最高温に達するから床土を入れる。接木の方法として接木もあるが、堆肥鉢を利用するか、ウスカワで鉢をこしらえ、一―二寸床土を入れた床面に並べて床土を入れる。

三 播種

普通砧としては南瓜より夕顔の方が成績が良い。砧に使う夕顔と穂の西瓜は大体一週間位おいて播種すると接木に好都合となる。夕顔は発芽が一般に悪いので催芽して播くと良い。催芽の方法は先ず種子を三〇分位ウスブルン一、〇〇〇倍液に浸し、一日位温湯に浸して二―三日三〇度近い堆肥上の簡易温床に播種して置くと(布袋に入れて堆肥中に置いてよい)白根を出して来るから鉢に一―二粒あて播いて四―五分の土をかける。大体四日目位から発芽し始め、発芽揃いとなれば換気を図つて温度を二〇―二四度位に保つようにしてできるだけ丈夫な苗に仕立てることが大切である。発芽揃となれば茎の太い丈夫な方を残して一本とする。尚日出しをしないで播く場合は一鉢に二―三粒播くようにする。丈夫な砧を得るためには簡易温床で発芽させて鉢に移植することも一方法である。

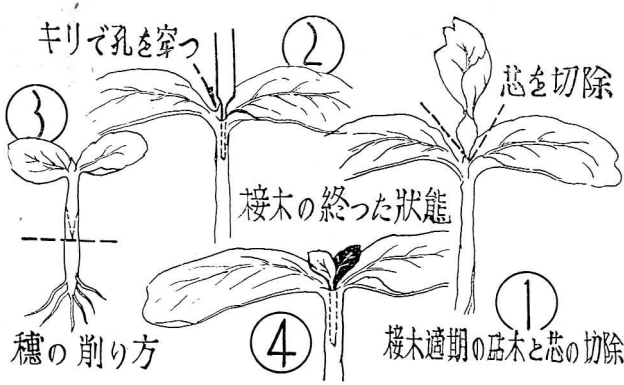
砧木が発芽し始めると西瓜の播種にとりかかる。西瓜も夕顔同様目出し播すると良い。低温の床では発芽が不揃となり、茎が太くなつて接木が困難になる。目出した西瓜は夕顔の床の片隅に播種することになるが、余程管理に注意しないと良い苗にならないのでむしろ簡易温床で育てた方が良い。

四 接木の時期

接木の時期は砧の子葉が展開して本葉一枚の出た頃が良い。砧木が大きくなりすぎると活着後の発育が悪い。穂(西瓜)は子葉が展開(水平に開く少し前)した頃が最も良い。接木を行う日に風に当ることを嫌うから無風の暖い日を選らび、接木後も二―三日好天が続くような時が良い。

五 接木の方法

接木の方法には割接法と挿込法とがある。挿込法の方が簡単で結果も変らないから多く行われている。挿込法を行うための道具といつても安全カミソリの葉とタケバシ等で作つた小孔をあけるキリだけで間に合う。この方法は穂にする西瓜を抜取つ



て、根を洗つて茶碗に浸し濡れないようにしておき、子葉を持つて、軸を三分位残して切り、幼軸の両側を楔型にけずる。けずる程度は挿入に困らぬ程度で薄い方がよい。砧の方は僅かの場合は天候の良い日であれば強いて鉢を動かさずとも良く、予め十分灌水しておき、その儘で生長点を除いて、その部分に(タケバシ)キリで深さ二分位稍ななめに小孔をあける。(真直でも大して差支えない)この孔に先にけずつた穂を挿入み接木が終る。

六 接木後の管理

接木が終ると直ちに障子をかけ保温するとともに日覆をする。最初の四―五日は温度を二五度位に保ち、遮光して穂の濁れるのを防ぎながら活着を図る。遮光するといつても完全に暗くするのでなくヨシズ程度をかけて弱い光線が入る様にすることが大切である。接木後温度と湿度を保つために障子の下にビニールを昨年張つて見たら好結果を得られた。五日目頃から僅かずつ日光に当てるようにヨシズを除き、換気を図る。床土が乾いたら接木面に水がかからぬようにして灌水する。要するに接木操作は簡単であるが、後の床の管理によつて成功率も変つて来るから注意が肝要である。

活着後上手に生長点をとつても側芽が出ることもあるので、この場合は早目に接木を傷めぬようにかきとる。一方月もすると本葉四枚位になるので三寸鉢使用の際は本葉三―四枚位になったら定植する。

(御詫び、本月号は誌面の都合で談話室欄が少なく、来月に伸びたものができましたことを御詫びいたします)